

平成22年度 第3回 北広島市環境審議会 議事概要

- 1 日 時 平成22年11月29日(月)午後6時30分～
- 2 場 所 市役所 本庁舎 2階会議室
- 3 出席者 委員：五十嵐恒夫会長・村野紀雄委員・上田純治委員
澤田美恵子委員・松原幸雄委員、山北雅宏委員
佐藤清一委員・長谷川眞知子委員
北広島市：小西課長、柳主査、平澤主査、阿部主査、高橋主事
- 4 配布資料 (事前配布)
○ 議案書
- 5 会議内容

- ・事業所アンケート結果について事務局から説明

(委員)感想だが、アイドリングの問題などは、事業者はすごく取り組んでいるのに、私たち市民の取り組みの割合は非常に低いということで残念だなと感じ、もっともっと市民のみなさんに働きかけをしていかなければダメだなと思った。

過剰包装については、企業の方も簡易包装などを心がけて、私たち市民も企業と一致した方向で進んでいけると最高にいいなと思う。このアンケートから見るといういろいろなことがわかって非常に参考になった。

- ・事務局から資料2(めざす環境の姿、目標)の内容についての説明

(委員)自然豊かなめざす環境の姿だが、これは前からの継承だと思うが、なにかわかりづらい感じがある。「豊かな自然に抱かれ」はわかるが、「未来に続く環境都市」とはなんだろうと。その説明も聞かせてほしい。

環境都市とは何か？環境を考える都市なのか、素朴な質問だが、よろしく願いしたい。

(事務局)めざす環境の姿については、現在の環境基本計画の中でも説明はない。これはイメージとして捉えるものと考えていて、豊かな自然を将来にわたって継承していく、それが未来に続いていく、環境を守る都市が続いていく、というようなイメージだ。必要あれば今後もう少し考えていきたいと思う。

(委員)目標の文言についてだが、その生活環境の目標が「安全で健やかに暮らせる公害のないまち」になっているが、公害はなくなるはずがない。

簡単に言えば安全で健やかに暮らせるまちでいいのかなと思う。

(事務局) 先に各分野別の取り組みについて検討し、内容を把握していただいた後最後にまたご意見をいただければと思う。

(会長) 内容について議論をしながら、意見が出されてくることを期待したい。

(委員) 「公害のないまち」、とか「ゴミのない資源を賢く使えるまち」、と切っているのですが、そこを切らないで「公害の少ないまちにしよう」、というような書き方ではどうか。取り組みとしてはやはり市民のみなさんで取り組んでいく時に、ぶつっと切るよりも、その語尾の方をそういうふうにやわらかくしたらどうかと思う。

(事務局) この目標の書き方だが、環境基本計画はどちらかということ市の取り組み、ということでこのような形で整理している。どちらかというと呼びかけというよりは、市の施策のめざす方向性という形で整理をしている。これから検討していく中でもっといい形があればそれはそのような形で考えている。

(会長) 今の指摘は先ほどの本来の本題と同じように、最終的にどうしようにした方がいいのか検討してはどうか。今

・事務局から資料3について説明

(事務局) 一点、最初の説明資料で漏れたところがある。第1回目の環境審議会で指摘があった諮問と答申の件だが、原案を審議するにあたって諮問の決定をした。環境審議会に諮問はする形になっているので、よろしくお願い致したい。

(委員) 最初の「豊かな自然に抱かれ未来に続く環境都市」、これについては中身がどうなのか書くべきだと思う。これはイメージが苦しいと思うが、何か考えてほしい。重大なことだ。これが最初から欠落しているということは、何を目指したらいいかわからなくなってしまう。

あと、50年先の未来の姿をどうやって描くかを検討してほしい。できるだけ具体的な内容にしてほしい。そうするとこれからの展開が見えてくる。

それで最初の文言で、どのような「まち」を目指すか出てくるが、環境関係は本当に総合的なまちづくりにも直結するものだが、ここは「環境」にしたらどうかと思う。つまり環境施策を総合的に進めていくには、どのような環境を目指すか。それがひとつ。

次に「環境の恵み」だが、もう少しわかりやすいような言葉がないのかなと思う。

そして目標の「安全で健やかに暮らせる公害のないまち」については、それは具体的に何かと考えると、病気がなくて健康というのはわかるが、安全というと交通

関係かと思ったり、それから犯罪がないまちとか、そういう環境づくりをすとか、ものすごく総合的になってしまう。それから3番で、都市と緑と多様な生活生物が共存するまちだが、都市と共存するとは何だろうと。都市以外のところはみんな切り捨てるのかと、つまり市街地以外。それで、思い切って「人と」にしたらどうかと。住む人達、人と緑と多様な生物が共存するまちとか。それでもうひとつ付け足したいものが「川」だ。川とみどり、前回の論議でも報告の中に川のことがずいぶん出てきたが、北広島はものすごく川が大事なので、人とみどりと川の、川と多様な生物だとか、そんな形にできないものかなと思う。

(事務局) 確かにこの環境の姿、恵みとか、イメージとか非常に難しいものがある。少し検討してみたいと思う。なかなか難しいところもあるので、どの辺までできるか、ということはある。目標3番の「都市」の件は、「人」がいいのではという意見は、今聞いて非常によいと感じた。

川については、確かに非常に水辺が少ないというところと、また、水に関する市の整備予定が、この後あまり多くないというところもあるが、そういったことも含めて検討していきたい。それから一番上の「安全」という言葉の件、イメージとしていろんなものを含んでいるという指摘と思うが、このあたりももう少し考えてみたいと思う。

(委員) 北広島はその川や水辺が少ないというが、多いと思う。千歳川は端の方だが、音江別川も含めて貴重な川がある。川は森とも関係あるし、それから生き物も。それで、音江別川などはヤマメのいる素晴らしい川だが、どんどん外来の魚類が増えたりしている。これは清流に保ちながらより親しめる場所にするということで、環境としてはかなり重要だと思う。

(会長) 確かにご指摘の通りだろうと思うので、川にもう少し力を入れた方がいいように思う。

(委員) 1ページ資料3の「めざす姿」についてだが、「未来に続く環境都市」とあるが、50年先の未来を展望してめざす環境の姿なので「続く」のもいいが、私の考えではつないでいく、「つなぐ」の方がいいのかと思う。それから下の方の環境と暮らしの関わりのところも、後ろの方は全部「まち」で閉じているが、最後の実践できる「人」というのは「市民」の方がいいのかなと思う。

(委員) 一番初めのところの豊かな自然に抱かれ未来に続く環境都市北広島、いいフレーズだと思うが、環境都市というのはどうか。環境文化都市みたいなものがないのではと前から思っている。

環境というものは自然の環境があり、人為的な、人間に関わるような環境問題もあるし、とても広い概念なのだが、環境というものから都市が、文化が作られていく、環境文化都市論みたいな表現もあってもいいかなと思う。

(会長) 今後の議論の中でそういうことも意識しながら議論を深めていきたいと。

(委員) ここに緑という言葉があまり出てこないが、市民憲章の中に緑豊かなとか、緑を育むとか、「緑」というのを使っている。

(事務局) めざす環境の姿とめざす市民の姿は前計画から引き継ぐような形で持ってきており、そこにたまたま入っていなかったということにはなる。もちろん緑については当然環境基本計画の中に入ってくるということになるので、目標の中では出てくる。載せないということではないとご理解いただきたい。

(委員) 最初の豊かな自然に「緑」を入れるのはどうか。

(事務局) そこはめざす環境の姿を定義というものがあいまいだということも関係しているのかもしれないが、もう少し考えをいろいろ進め、深めていくと、そのあたりもはっきりしてくるかもしれないので、また検討させていただきたいと思う。

(委員) 「姿」についてですが、事務局の方でイメージとしてとらえていると言う。環境というのは、自然環境と社会環境で大きく分けられると思う。めざす環境の姿はまだこの他にももうひとつやふたつくらいは軸で示されなくてはならないと思われる。もっと環境の姿を軸で示すことが肝要だと思う。

(委員) 最初の「めざす環境の姿」という言葉のすぐ下に「豊かな自然に抱かれた未来に続く環境都市北広島」。私も含めほとんどの人はたぶんわからない。豊かな自然に抱かれて、たとえば「住みよい」環境の都市というような、何が未来に続くのかという、ひとつの修飾が抜けているのかなと思う。50年後を目指していくとなると、いったいどういう都市にしていくのか、もう少しイメージがあってもいいと思う。もし50年というふうなスパンで何か計画を立てるのであれば、もう少し何か具体的なもの、ただのキャッチフレーズみたいなものじゃなくて夢がもっと持てるようなキャッチフレーズにした方がいいと感じた。

(会長) 自然環境だけのことしか言ってないような感じがする。めざす環境の姿のところ、非常に狭く印象付ける文章になっているのかもしれない。今後の議論の中でよりいい言葉が見つかるようなことを期待したい。

・事務局から資料4（生活環境分野）について説明

(委員) ここに新たな問題ということで電磁波と低周波の問題が挙げられているが、まだ電磁波が人体に影響があるということが実証されてないと聞いている。こういう人体に影響があるかないかわからない、まだはっきりしないものは、こういうと

ころに載せておかない方がいい。載せるということは、絶対影響があるから載せている、ということになると思う。

(事務局) 検討する。

(会長) 成果指標の数値目標のところの下水道整備率だが、これが11年経っても、0.2%しか改善されないが、具体的には延長がどれくらいこの11年間で伸びることが予想されるのか。

(事務局) 確認する。

(委員) 取り組みの内容の、③の(1)の有害化学物質による汚染の防止というところの、農作物の安全性を高め云々と書いてあるところだが、今現在も安全性は高いと思う。これを見ると今は低いというイメージがあるので、もう少し表現を考えるべきだ。

(事務局) 検討する。

(委員) クリーン農業の推進だが、JAと行政で北広島の農業者に対してこれを推進していくため、何か特別なことは考えているのか。

(事務局) かなり認定を進めているというような状況は聞いている。確認をしていきたい。

(五十嵐会長) 他に何かございませんか。

(委員) 市民・事業者の役割、行動指針についての表現だが、事業者の役割の表現を、「心がけます」で終わらせないで「心がける」くらいにしておいた方がいいと思う。それから北広島環境保全指針要綱の配布をお願いしたい。

・事務局から資料5（自然環境・快適環境）について説明

(委員) 市街地の緑のところ都市公園の面積が載っているが、これは10年前と比べて多くなっているのか少なくなっているのか。
前回の計画では、他の町と比べたら北広島市の一人当たりの面積が多いと載っていたので、自慢できることかと思ったが。

(事務局) 確認する。

(委員) 市街地の緑についてだが、街路樹はほとんどが広葉樹で、市では街路樹は原

則として広葉樹を採用するとなっている。ただし、幅の広い所は常緑樹を採用することもできるようなので、新たに街路樹を植栽する場合は常緑樹、針葉樹を使ったらどうかと思う。たとえば葉に香りのあるニオイヒバだとか、それからJR本線沿いのサイクリングロードなどにも植えられているブンゲンストウヒを植えたらどうか。

それから最近外資系の土地買収問題があるが、北広島の現在の状況はどうかなどと思い、森林組合に聞いたところ、現在のところこの地区ではこのような事態は起きていないが、そういう恐れはあると言っていた。

(委員) 文言の修正について申し上げたい。まず現状と課題の、「都市における市民の休養」とあるが、これは「都市における」はいらないのではないか。「市民の休養」で十分だと思う。それから次に現状のところだが、自然資源や山林等の分布とあるが、中身は森林・緑だけなので、そのように書くべき。それと山林の面積が書いてあるが、必要なのは森林であれば森林の質だと思う。たとえば人工林・天然林など。こういう区分が生物多様性の問題につながる。そして街の中と街の周辺の区分けをするといいと思う。北広島のまとまった緑の分布図だが、もう少しなんとかならないかと思う。国有林と仁別それから三島それから南の里環境緑地、これ以外の所は草地なのか。ゴルフ場なのか。その辺がわからない。緑の分布となると、上に述べたことは全部入っていることになるから、その辺の整合性を取っていただきたい。

次に「自然を損なう行為が規制されている」とあるが、自然を損なう行為というのを例示していただきたい。それから、野生生物のところ。平成12年度に市内の植生や野生生物の生息状況、その時点での調査を実施しているが、もう10年前。非常に変わってきているが、それがわからないとこれからのことを姿も描けないし、問題もわからないといことになる。

自然環境調査結果の中で植物の確認種について書いているのは、タンポポ、スズラン、ススキなどだが、あまりにも残念。もう少し、ここの植物の特色を出すようなものとかを挙げないといけない。それからあと哺乳類。ここに出ているのは半数以上が外来種だ。アライグマ、エゾシカ、タヌキ。北広島として重要な哺乳類、自然のもので希少扱いにもなるようなものがあるはず。そういうものを例示すべきだと思う。また、カエルはお粗末。ここにいるカエルは、この当時ピックアップされたのはエゾヤマアカガエル、ニホンアマガエル、トノサマガエルだったと思う。で、3種挙げても構わないが、ここも実はものすごく変わってきている。野幌森林公園でいろんなものの侵入が始まっている。だからそういった調査をしておかないといけないと思う。後でこれから調査すると書いているので、少なくとも過去の調査記録は正確に出していただきたい。次もカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、3種。もっといるはずだ。それから次の鳥類もオジロワシ、カッコウ、ウグイスなど、これも検討していただきたい。それから昆虫類もいろいろいる。魚類もここにあるのはほとんど外来種。希少なものがあるはず。今後のことをやるために必要な資料なので、できるだけ検討していただきたいと思う。それから甲殻類でニホンザリガニ、

スジエビとあり、その下でウチダザリガニが出てきてくる、外来種としてその後入ってきたと表現するとか、整合性を取っていただきたい。それから次、生物環境は悪化しているはず。そういうことがあるという事実をはっきりさせて、これまでの調査記録などを踏まえてここに反映させていただきたい。それから表現の間違いだ、**「国有林全域と西の里の一部は道立自然公園に指定されており・・・」**とあるが、これは違う。ここの表現を検討していただきたい。

次に市街地の緑だが、中身がほしい。要するに公園であっても木の全然ないところもある。今公園にどんな木が入っているか、あるいはその何%が樹林で覆われているとか、そういうことも現況になってくる。できるだけ具体的に、公園の緑の内容がわかるような感じになるべきだと思う。そうすると課題が見えてくる。

次の課題では、今言ったようなことをカバーするようなことが大体書かれているので、その前提となることをもう少し整理したらいいと思う。そして先ほどの水質・公害関係だけではなくて、ここでも川の保全について書くべきだと思う。

また町の中の緑では、もうひとつ必要なのは個人の庭だ。個人の庭も豊かにするようにできればと思う。花の関係のことも出ているので、オープンガーデンなども含めて、そういうところを入れられたらいいかと思う。

取り組み内容だが、保全し適切に維持管理します、それから環境緑地保護地区、鳥獣保護区この豊かな自然を残す、森林の保全に努めますと、あまり施策がないのではないかという印象がある。具体的なことがほしい。

それで次のページ、公園緑地の整備等と維持管理があるが、たとえば公園の改修の時あるいは枯損木が出た時、その改植・補植の場合はできる限り、特に事情がない限り北広島の自然の樹木に切り替えていくという方針があった方がいいと思う。街の中でも周辺でも、緑はやっぱり動植物、人間の生存・共存の場所だが、地域性・生物多様性を活かすということはその中でもできる。地元のコンセプトも必要だが、北広島の特徴を出す、北広島の木で覆うとか、そういった方向性があればいいと思う。

(事務局) 現状をどこまで書くかということはいろいろ考えたが、大まかな状況が見える程度で、というところで整理をしている。指摘あった人工林や天然林の割合などは、ある程度のこと盛り込んでいきたいと思う。ただ緑の部分は緑の基本計画等もあることから、どこまで書くか考える必要がある。それから野生生物の部分は、細かいところまで記載するのは難しい部分がある。逆に意見を聞いていて、あっさりとした方がいいのかとも考えた。ご指摘いただいた表現部分については検討していきたい。

(委員) 山林に何が植えてあるのか、これは当然あったほうがいいと思う。人工林・天然林の区分ははっきりわかる。広葉樹、針葉樹も別に表示されており、森林台帳を見ればわかる。

(会長) 10月13日に、環境審議会の自主研修ということで北広島市の街路樹の問

題点をいろいろ勉強する会を開催した。そこで、北広島団地の街路樹には問題があるということが明らかになった。輪厚の新しくできた団地の中の街路樹、これは規模的にはもちろん小さいがきちんと作られているとか、それから東地区の歩道に植えられた街路樹が、なかなか魅力的な部分も小面積だがある、というようなことがわかった。6年前の台風で大被害を出しているのに災害復旧的な対処をしなかったというのが、北広島団地の街路樹が一番大きな壊れた原因だと思う。先ほど針葉樹の街路樹も考えるべきという意見があり、それは大賛成だ。ただ挙げられた樹種がニオイヒバとブンゲンストウヒというのはどうかと、どうせやるならアカエゾマツがいいという感じがする。団地の中の街路樹の樹種選定は、担当者が苦労して、いろんな樹種を使ってそれぞれ特徴を出すようなことで考えたと思うが、ただその段階ではまだこの市の木というのが決まっていなかった。

木については楓になったのだが、それが入っていない。かなり大々的に手直しをしなければならぬ状況であるから、そういう市の木を使った街路樹帯があってもいいと思う。この前、市長との懇談会が近くであり、私は街路樹の問題点というのをそこで話をしたが、トップの方は全然理解をしていないようで、困ったなという感じがした。研修には現場の所長も出席してくれて、とにかく緑のかたまりを途切らせないような形で考えるといいのですね、というように言っていたので、わかってくれたかなと考えていますが、大変な乱れた状況になっている。ここの街路樹のところはだいぶ遠慮して書いているが、問題提起の意味できちんと位置付けていただければということ。それは非常に一歩前進だろうと思っている。

・その他について

(事務局) 一点だけ相談だが、皆様の都合が許せば、時下の審議会を30分早めて18時から開始したいがどうか

(会長) いいと思う。

この一カ月間、直下型の地震が3回から4回起きている。かなり心配している方もいるだろうという感じがするが、市民にどういう地震が起きているのかというような情報を出すことを考えた方がいいと思う。専門家にそういう地震の問題をわかりやすく話をしてもらえるようなことを考えてもいいのではと感じる。ここ北広島は大丈夫と思っていたが、北広島にも活断層があるという。それが動き出したような感じだ。新聞が取り上げているかと思ったら朝日は全く取り上げていないし、道新も書いてない。

(事務局) 担当は総務部にある危機管理課。北大の先生で、今回の地震の関係で新たに地震計を設置したというようなことがあるようで、そのあたり先生と連絡を取ろうとしているけども、なかなか連絡が取れないというようなことを聞いている。

(その他の意見等がないことを確認して終了)